

宮崎県の調査結果

【1 結果の概要】

学校政策課

調査の目的

- (1) 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

調査の概要

- 1 調査実施日 平成25年4月24日(水)
- 2 対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年
- 3 調査対象 小学校：241校(市町村立小学校239校、特別支援学校小学部2校)
中学校：139校(市町村立中学校133校、県立学校3校、特別支援学校中学部3校)

国立・私立学校も参加しているが、示しているのは、県内の公立小・中学校特別支援学校の結果のみである。

宮崎県の公立小・中学校の学力調査結果の概要

1 平均正答数

小学校第6学年

年度	教科 〔問題数〕	国語 A 〔18問〕	国語 B 〔10問〕	算数 A 〔19問〕	算数 B 〔13問〕	合計 〔60問〕
H25	宮崎	11.6	4.8	14.6	7.4	38.4
	全国	11.3	4.9	14.7	7.6	38.5
	全国との差	+0.3	-0.1	-0.1	-0.2	-0.1

中学校第3学年

年度	教科 〔問題数〕	国語 A 〔32問〕	国語 B 〔9問〕	数学 A 〔36問〕	数学 B 〔16問〕	合計 〔93問〕
H25	宮崎	24.3	6.0	23.0	6.6	59.9
	全国	24.4	6.1	22.9	6.6	60.0
	全国との差	-0.1	-0.1	+0.1	±0.0	-0.1

A問題：主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい
知識・技能

B問題：主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容
様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

2 平均正答率

小学校第6学年

年度	教科	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	合計
H 2 5	宮 崎	64.5	48.1	77.0	56.8	246.4
	全 国	62.7	49.4	77.2	58.4	247.7
	全国との差	+1.8	-1.3	-0.2	-1.6	-1.3

中学校第3学年

年度	教科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	合計
H 2 5	宮 崎	76.1	66.4	64.0	41.4	247.9
	全 国	76.4	67.4	63.7	41.5	249.0
	全国との差	-0.3	-1.0	+0.3	-0.1	-1.1

宮崎県の結果の概要

本県の学力の状況を「2 平均正答率」の表でみると、合計は、小学校、中学校ともに、全国平均をわずかに下回っている。

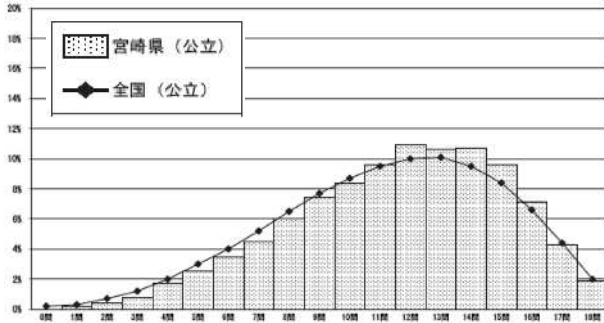
教科・区別では、小学校は、知識に関するA問題については、国語が全国平均を若干上回り、算数は全国平均とほぼ同じである。活用に関するB問題については、国語、算数ともに、全国平均をわずかに下回っている。中学校は、知識に関するA問題については、国語、数学ともに、全国平均とほぼ同じである。活用に関するB問題については、国語は全国平均をわずかに下回っているが、数学は全国平均とほぼ同じである。

過年度の平均正答率については、「宮崎県教育研修センター」のトップページにある、「調査・研究」の「全国学力・学習状況調査」を参照ください。

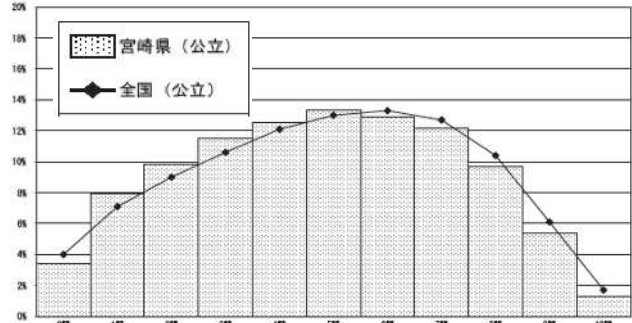
平成25年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果
【2 小学校国語の結果概要】

学校政策課

宮崎県全体の正答数分布状況（公立）
小学校国語A（18問）



小学校国語B（10問）



棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率

太字が宮崎県の平均正答率、()の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

領域	国語A	国語B
話すこと	47.6 (43.2)	62.2 (64.8)
聞くこと	+ 4.4	- 2.6
書くこと	53.3 (53.0)	42.1 (43.8)
	+ 0.3	- 1.7
読むこと	62.5 (60.1)	47.8 (47.9)
	+ 2.4	- 0.1
言語事項	64.8 (62.6)	62.6 (63.8)
	+ 2.2	- 1.2

問題形式	国語A	国語B
選択式	68.0 (66.3)	56.8 (59.7)
	+ 1.7	- 2.9
短答式	63.9 (61.9)	45.5 (45.9)
	+ 2.0	- 0.4
記述式	45.4 (44.9)	41.4 (42.5)
	+ 0.5	- 1.1

小学校国語の設問別結果概要（全国平均との比較）

【話すこと・聞くこと】

- (A) 選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する問題
- (B) 6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する問題

【書くこと】

- (B) 「ずかんの一部」の中から花火師の苦勞が具体的に書かれている内容を引用して書く問題

【読むこと】

- (A) 焚火とその周りの景色との関係を表したものとして適切なものを選択する問題
- (B) 2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する問題

【言語事項】

- (A) 小学校第5学年までに学習した漢字（めずらしい植物を採集する）を正しく読む問題
- (A) 小学校第5学年までに学習した漢字（委員会をもうける）を正しく書く問題
- (A) 文の定義を理解し、文のはじめの5文字を丸で囲む問題
- (A) ことわざ（急がば回れ）の意味として適切なものを選択する問題

(A)(B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より低い。

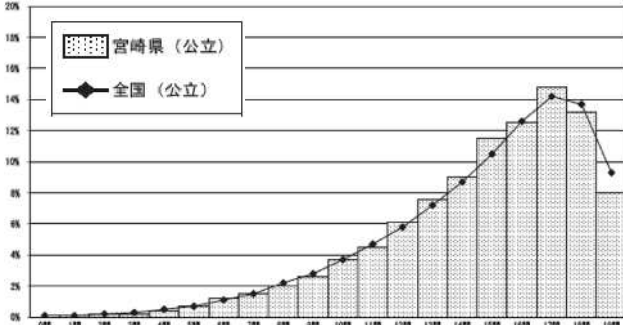
は全国と比べよくできているもの、 は全国と比べ課題と考えられるもの

平成25年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果
 【3 小学校算数の結果概要】

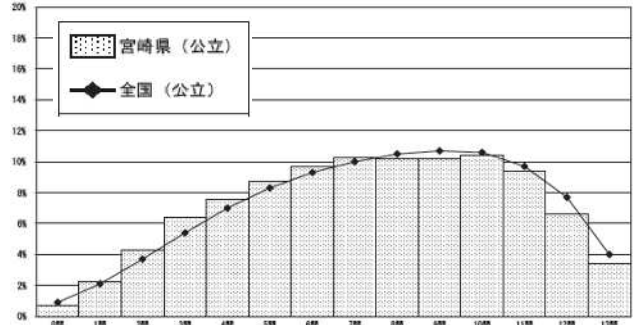
学校政策課

宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

小学校算数A（19問）



小学校算数B（13問）



棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率の推計値

太字が宮崎県の平均正答率、()の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

領域	算数A	算数B
数と計算	79.4 (80.2) - 0.8	46.8 (48.3) - 1.5
量と測定	69.8 (68.3) + 1.5	54.3 (56.0) - 1.7
図形	72.5 (72.5) ±0.0	77.8 (79.3) - 1.5
数量関係	82.7 (83.4) - 0.7	52.0 (54.9) - 2.9

問題形式	算数A	算数B
選択式	68.3 (68.2) + 0.1	71.7 (73.8) - 2.1
短答式	83.3 (83.6) - 0.3	58.6 (61.9) - 3.3
記述式		43.3 (43.2) + 0.1

小学校算数の設問別結果概要（全国平均との比較）

【数と計算】

- (A) 一万の位までの概数にしたときに、20000になる数を選ぶ問題
- (A) 小数の加法の計算(0.75+0.9)をする問題
- (A) 同分母の分数の加法の計算(2と5/7+1と1/7)をする問題

【量と測定】

- (A) 上底3cm、下底8cm、高さ4cm、斜辺5cmの台形の面積を求める式と答えを書く問題
- (B) 示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを書く問題

【図形】

- (B) 4等分になるための条件の中で、台形では当てはまらないわけを選ぶ問題

【数量関係】

- (B) 残りの乗り物券の枚数と乗る予定の乗り物を基に、二人がまだ乗る予定になく一緒に乗ることができる乗り物を書く問題
- (B) 示された式の値が何を表しているのかを書く問題

-
- (A)(B) 無解答率が1問を除き全問題を通じて全国平均より低い。
 - (B) 短答式の問題の正答率が、全国と比べ低い傾向が見られる。

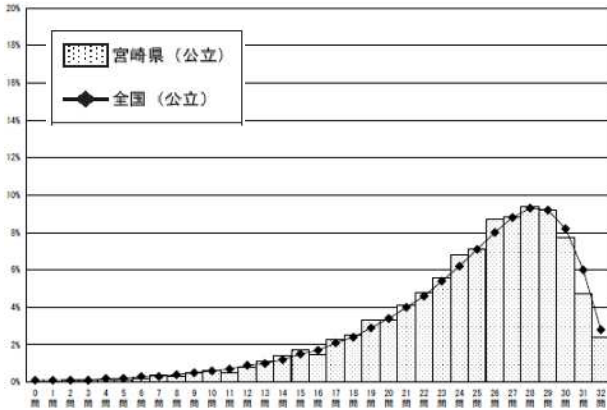
は全国と比べよくできているもの、 は全国と比べ課題と考えられるもの

平成25年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果
 【4 中学校国語の結果概要】

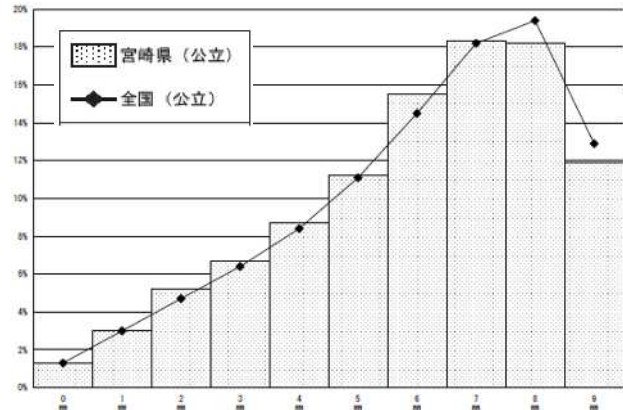
学校政策課

宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

中学校国語A（32問）



中学校国語B（9問）



棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）
学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率の推計値

太字が宮崎県の平均正答率、()の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

領域	国語A	国語B
話すこと	77.7 (77.6)	/
聞くこと	+ 0.1	
書くこと	63.3 (64.5)	63.5 (62.7)
	- 1.2	+ 0.8
読むこと	78.3 (80.0)	66.5 (67.8)
	- 1.7	- 1.3
言語事項	77.8 (77.5)	66.2 (64.6)
	+ 0.3	+ 1.6

問題形式	国語A	国語B
選択式	76.6 (77.3)	66.0 (68.2)
	- 0.7	- 2.2
短答式	75.1 (74.7)	77.8 (77.5)
	+ 0.4	+ 0.3
記述式	/	63.5 (62.7)
		+ 0.8

中学校国語の設問別結果概要（全国平均との比較）

【書くこと】

- (B) 間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを漢字の特徴を取り上げて説明する問題
- (A) 内容に応じて第二段落を二つに分ける問題

【読むこと】

- (A) 「あの枯れ枝の梢を...うれしげであることだろう。」と筆者が感じた理由を説明したものとして適切なものを選択する問題
- (A) 「小麦はそういうわけにはいきません」と述べている理由として適切なものを選択する問題
- (B) 新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する問題

【言語事項】

- (A) 文脈に即して漢字（おやつをキントウに分け合う）を正しく書く問題
- (A) 文脈に即して漢字（山々が連なる）を正しく読む問題
- (A) 「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す問題

- (A) (B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より低い。
- (B) 短答式の問題の正答率が、全国と比べ高い傾向が見られる。

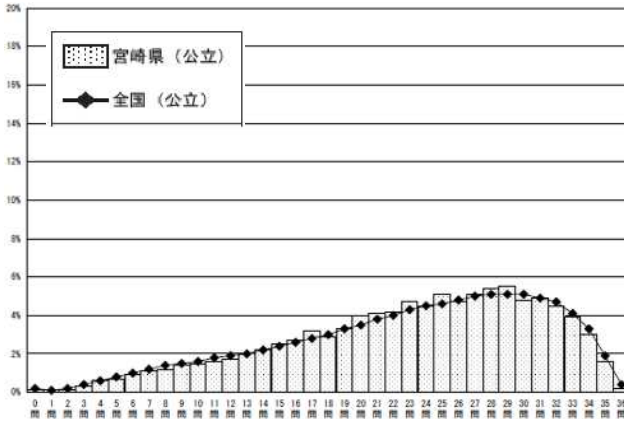
は全国と比べよくできているもの、 は全国と比べ課題と考えられるもの

平成25年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果
 【5 中学校数学の結果概要】

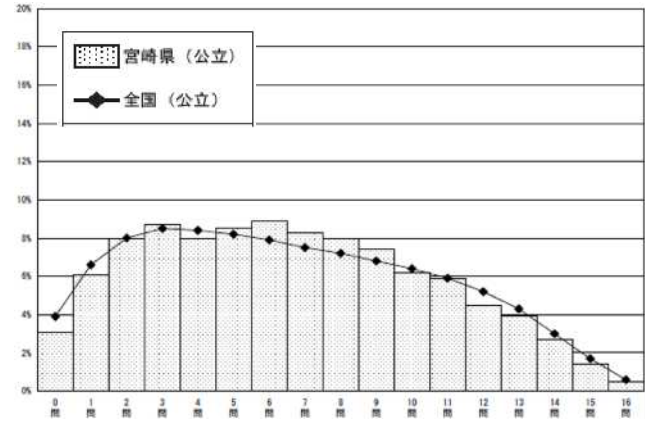
学校政策課

宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

中学校数学A（36問）



中学校数学B（16問）



棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率の推計値

太字が宮崎県の平均正答率、()の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

領域	数学A	数学B
数と式	73.2 (72.7) + 0.5	43.7 (41.7) + 2.0
図形	63.9 (64.6) - 0.7	40.9 (44.8) - 3.9
関数	59.4 (58.7) + 0.7	39.4 (40.0) - 0.6
資料の活用	49.3 (46.8) + 2.5	41.9 (42.2) - 0.3

問題形式	数学A	数学B
選択式	61.1 (61.8) - 0.7	42.6 (43.3) - 0.7
短答式	67.0 (65.5) + 1.5	56.6 (55.8) + 0.8
記述式		29.9 (30.3) - 0.4

中学校数学の設問別結果概要（全国平均との比較）

【数と式】

- (A) $5 \times (4-7)$ を計算する問題
- (B) 碁石全部の個数を求める式 $3(n-1)$ に対応する囲み方を選ぶ問題
- (A) 東京の時刻を基準にして、東京とカイロの時差を表す問題

【図形】

- (A) 角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ問題
- (B) 2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する問題

【関数】

- (A) 反比例 $y=6/x$ のグラフを完成する問題

【資料の活用】

- (A) 大小2つのさいころを同時に投げるとき、出る目が両方とも1になる確率を求める問題

-
- (A)(B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より低い。
 - (A)(B) 短答式の問題の正答率が、全国平均と比べやや高い傾向が見られる。

は全国と比べよくできているもの、 は全国と比べ課題と考えられるもの

平成25年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果
【6 小学校の具体的な問題例】

学校政策課

【小学校国語】

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる問題は、全国と比べてできている。

A問題

正答

一	二	三
(3) さいしゅう	(2) しそん	(1) けん
(3) 設	(2) 停車	(1) 焼

(ける) (く)

- (3) 委員会をもうける。
- (2) バスがていしやした。
- (1) 魚をやく。

これまでの指導の「継続」と「徹底」をお願いします。



- 二 次の(1)から(3)までの文の——部のひらがなを、
- (3) めずらしい植物を採集する。
- (2) 子孫のためにゴミをへらす。
- (1) 乗り物の券を買う。
- 一 次の(1)から(3)までの文の——部の漢字の読みを、

1

		正答率	無答率
(1)	宮崎	99.1%	0.3%
	全国	98.9%	0.5%
(2)	宮崎	79.0%	1.7%
	全国	79.2%	2.2%
(3)	宮崎	74.1%	1.7%
	全国	64.9%	3.1%
二		正答率	無答率
(1)	宮崎	77.2%	3.6%
	全国	72.4%	5.6%
(2)	宮崎	48.4%	8.2%
	全国	46.9%	11.0%
(3)	宮崎	60.7%	20.5%
	全国	53.5%	27.4%

誤答例
一(3)さいしゅう(18.2%)
二(2)「停」が書けない(41.3%)

ことわざの意味を理解することができるかどうかをみる問題は、全国と比べて課題がある。
文の定義を理解することができるかどうかをみる問題は、全国と比べて課題がある。

A問題

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

一 「文章の一部」の中には、いくつかの文があります。それぞれの文のはじめの五文字を丸で囲みましょう。なお、読点(、)も字数にふくみます。

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

【文章の一部】

3 次の「文章の一部」は、六年生の高島さんが五年生のときから続けている放送委員の仕事について書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

- 二 「急がば回れ」
- 1 その人のためになる注意は、なかなか聞き入れられにくいこと。
- 2 ていねいに取り組んでも、いつこうに手ごたえがないこと。
- 3 時間がかかっても、安全で着実な方法を選ぶほうがよいこと。
- 4 何事も用心に用心を重ねて取り組むことは難しいこと。

二
3

2

次の一と二のことわざの意味を、1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

		正答率	無答率
二	宮崎	83.3%	0.8%
	全国	86.1%	1.2%

誤答例
2を選択(6.2%)

		正答率	無答率
三	宮崎	32.8%	19.4%
	全国	36.5%	20.2%

誤答例
2文目の「ぼくは、委」を間違っている(14.9%)
1文目の「放送委員会」だけ答えている(11.3%)

指導のポイント
国語辞典などを使いながら、ことわざを用いて表現する機会を設ける。
文の定義や文と文章の区別について、低学年から各学年の発達段階に応じて指導しましょう。
「授業アイデア例」参照



話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をすることができるかどうかをみる問題は、全国と比べて課題がある。

B 問題

1

六年生の川本さん、中川さん、そして青木さんの三人が、春の遠足に出かける五年生の代表 A・B の二人に、遠足で行うレクリエーションについて助言をしています。次は、そのときの「助言の様子」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【助言の様子】

※①・②・③の発言の内容は、あとの問いと関係があります。
※(一)の中の言葉は、そのときの様子を説明したものです。

川本
五年生 A

こんにちは。ここにすわっていいよ。(やさしい態度)
はい。(きんちようした様子) わたしたち二人は、学年のレクリエーション係をしています。わたしたちは春の遠足で行うレクリエーションの内容についてやってみよう。場所は去年と同じ公園で、一時間の活動時間が決められています。わたしたち五年生としては、ボールを使ったレクリエーション活動を考えています。公園でその活動を行うときに、どのようなことに注意したらよいか、助言をもらいにききましょう。よろしくお願ひします。



川本
中川

わたしは三人もレクリエーション係だったのよ。去年もみんなが納得するように提案するのは大変だったわ。わたしたちの体験が役に立ってほしいわ。何でもかまわないので聞いてね。(ほほえむ)

五年生 A・B

① おりがどうですか。(ほっとした様子)
いろいろなレクリエーションを案じたいと思っけれど、前もって何か調べていることはあるかな。(笑顔)

川本
中川

② 前もって自分たちで資料を探し、去年のことにもとにしながら、できそうな活動について考えようとしているのね。係として、とても大切なことね。(熱心な様子)
そうやってもらえるとうれしいです。(A・B 共にほっとした様子) 五年生の一部にサッカーを希望する人がいるのですが、この公園でサッカーはできませんでしょうか。

五年生 A

いや、この公園でサッカーの試合は無理だね。川本さんが言ったように、この公園はサッカーの試合ができるような広さではないよ。でも、少ない人数でパス回しを繰り返して遊べるかな。

青木

③ 実はね、案内図にはかいていなかったと思うけど、この公園にはいろいろな道具があつて、無料で貸し出しをしているんだよ。(明るく)
(え、そんなものがあるのですか。この案内図だけでは、分かりませんでした。いろいろな道具にはどのようなものがあるのですか。

川本

サッカーボール、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、長なわなどがあったわよ。それにバスケットコートもあるよ。

中川

そうだね。(五年生 A と顔を見合わせる) 六年生のみなさん、活動をするグループは、何人くらいがいいと思いますか。

五年生 A

そのことについて、二人はどう思うかな。少し二人で相談してごらん。

青木

(五年生 A と相談したあと) みんなにアンケートをとって、希望するレクリエーションごとにグループをつくるのがいいと考えました。どうでしょうか。

五年生 B

グループで活動することはいいかもされないね。ただ、それにこだわることなく、全員で一つの活動をするのも考えられるね。何より大切なことは、レクリエーションを何のためにするか、確かめておくことだね。

川本

はい、分かりました。もう一度考えてみます。六年生の助言をもとに、よりよい活動にしたいと思っています。今日はありがとうございました。

五年生 A

青木

1		正答率	無答率
二	宮崎	44.0%	0.7%
	全国	48.5%	1.2%

誤答例
青木 に「4」、川本 に「3」と解答しているが、中川 に「1」と解答していない(9.0%)
3人のうち2人以上間違っている(38.6%)

指導のポイント
聞いた内容について確認したり、質問したりしながら、相手の話を十分に聞き取ることを、学校生活の様々な場面においても指導しましょう。
自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめる学習を設定しましょう。
「授業アイデア例」参照



二【助言の様子】の中の①・②・③の三人の発言は、それぞれどのようなねらいがあると考えられますか。その説明として最もふさわしいものを、次の1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 相手の考えのよさやくふうしたところを見つけ、そのことを認めようとしている。
- 2 自分の成功や失敗から学んだことを話し、相手が問題を解決できるようにしている。
- 3 相手があつていない情報を示し、選ぶことができることがらを広げようとしている。
- 4 相手があつていない情報を知っているかを確かめようとしている。

正答

二	青木	①	4	中川	②	1	川本	③	3
---	----	---	---	----	---	---	----	---	---

【小学校算数】

四捨五入で数を適切に処理する方法について理解しているかどうかをみる問題は、全国と比べてできている。

A問題

2

四捨五入して一万の位までのがい数にしたとき、20000になる整数を、下の 1 から 5 までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

- 1 14500
- 2 15000
- 3 19500
- 4 24999
- 5 25000

数の範囲を捉え、概数を的確に用いることができるように、数直線に表して考える過程を大切にしてください。



	2	正答率	無答率
	宮崎	66.5%	0.9%
	全国	60.2%	1.9%
誤答例 「2・3」の2つを解答している(9.6%)			

正答

2	3	4
---	---	---

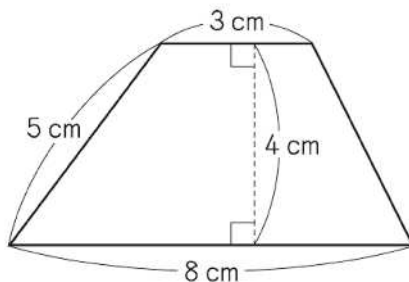
台形の面積の求め方を理解しているかどうかをみる問題は、全国と比べてできている。

A問題

5

(3) 下の台形の面積を求める式と答えを書きましょう。

今後も面積の求め方を考え説明する算数的活動を重視して指導をお願いします。



	5	正答率	無答率
(3)	宮崎	82.1%	1.0%
	全国	73.3%	2.1%
誤答例 面積を求める式は何らかの形でできているが、22以外の数を解答しているもの(3.8%)			

正答

式	答え
(例) $(3+8) \times 4 \div 2$	22 cm ²

小数第2位までの加法「(小数) + (小数)」の計算をすることができるかどうかをみる問題は、全国と比べて課題がある。
同分母の分数の加法「(帯分数) + (帯分数)」の計算をすることができるかどうかをみる問題は、全国と比べて課題がある。

A問題

1

次の計算をしましょう。

(2) $0.75 + 0.9$

(6) $2\frac{5}{7} + 1\frac{1}{7}$

正答

(2)	1.65
(6)	$3\frac{6}{7}$

指導のポイント
約2割の児童が末尾をそろえて筆算をしていると考えられる。2年時の学習から、加法・減法の場合は同じ位どうして計算することを、どの学年でも共通して指導しましょう。
整数部分どうし分数部分どうしを計算する考え方と仮分数に直して計算する考え方があることを理解できるように指導しましょう。



	1	正答率	無答率
(2)	宮崎	64.1%	0.2%
	全国	71.3%	0.3%
誤答例 0.84、8.4、84と解答しているもの(19.1%)			
(6)	宮崎	82.0%	2.6%
	全国	88.9%	2.1%
誤答例 1と4/7とひき算して解答しているもの(1.9%)			

情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断することができるかどうかをみる問題は、全国と比べて課題がある。

B 問題

1

ゆりえさんたちは、遊園地に行く計画を立てています。

- (1) ゆりえさんとひさこさんは、乗り物券を1人8枚ずつ買う予定です。
この遊園地の乗り物と、乗るために必要な乗り物券の枚数は、次の表のとおりです。

乗り物	乗り物券の枚数(枚)
ジェットコースター	5
観覧車	4
ボート	3
ゴーカート	2
コーヒーカップ	1
メリーゴーランド	1

2人は、それぞれ下の乗り物に乗る計画を立てました。



2人は、まだ乗り物券が残るので、ほかに乗る乗り物を下のよう考えました。

- ・残りの乗り物券で乗る。
- ・2人とも選んでいない乗り物に乗る。
- ・2人で同じ乗り物に乗る。

2人は、どの乗り物に乗ることができますか。答えを書きましょう。

	1	正答率	無答率
(1)	宮崎	45.7%	2.6%
	全国	51.0%	3.1%

誤答例
ゴーカートとボートと解答しているもの(17.7%)

指導のポイント
情報を整理する活動を取り入れ、条件に合うかどうかを表現していくことが大切です。表に整理したり、整理の仕方を言葉で表現したりする活動を授業の中に設定しましょう。

乗り物	枚数	ゆりえ	ひさこ
ジェットコースター	5	×	×
観覧車	4	×	×
ボート	3	×	×
ゴーカート	2		×
コーヒーカップ	1		×
メリーゴーランド	1	×	

「授業アイデア例」参照

正答

(1)	ゴーカート
-----	-------

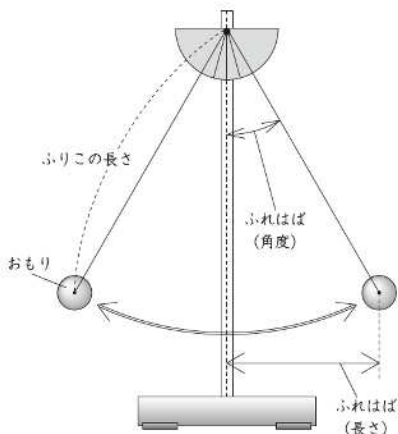


示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているかについて理解しているかどうかをみる問題は、全国と比べて課題がある。

B 問題

2

- ゆきこさんは、ふりこの実験を3つします。
実験では、ふれはばを変えないで、ふりこの長さとおもりの重さを変えたときに、ふりが | 往復する時間がどのようになるのかを調べます。



指導のポイント
何を求めるための式なのかを考える場面を設け、式の意味の理解を確実にすることや立式の場面を振り返ることを指導しましょう。

	2	正答率	無答率
(1)	宮崎	46.8%	2.4%
	全国	51.7%	3.4%

誤答例
「10往復する時間」と解答しているもの(17.1%)
「1往復する時間の平均」と解答している(12.6%)



- (1) 実験1では、ふりこの長さを50cm、おもりの重さを40gにして、ふりが10往復する時間を6回測定し、下の表にまとめました。

実験1の結果

実験回数(回目)	1	2	3	4	5	6
10往復する時間(秒)	14	15	14	13	15	16

ゆきこさんは、上の表をもとに、次の2つの式で | 往復する時間の平均を求めました。

ゆきこさんの求め方

- $(14 + 15 + 14 + 13 + 15 + 16) \div 6 = 14.5$ (秒)
- $14.5 \div 10 = 1.45$ (秒) …… | 往復する時間の平均

正答

(1)	(例) 10往復する時間の平均
-----	-----------------

- ①の14.5(秒)は、何を求めていますか。答えを書きましょう。

平成25年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果
【9 中学校の具体的な問題例】

学校政策課

【中学校国語】

文脈に即して漢字を正しく書く・読むことができるかどうかをみる問題は、全国と比べてできている。

A問題

正答

1	希望
2	均等
3	帯

- 1 異論を唱える。
2 社会を風刺する。
3 山々が連なる。

二 次の1から3までの文中の——線部の漢字の正

これまでの指導の「継続」と「徹底」をお願いします。



- 1 大きなキボウをもつ。
2 おやつをキントウに分け合う。
3 着物に合わせてオビを選ぶ。

一 次の1から3までの文中の——線部のカタカナを漢字に直し、楷書で

8 次の一から七までの各問いに答えなさい。

		正答率	無答率
1	宮崎	87.5%	2.1%
	全国	87.5%	3.0%
2	宮崎	62.3%	9.5%
	全国	59.3%	11.9%
3	宮崎	69.1%	10.3%
	全国	66.7%	15.2%
二		正答率	無答率
1	宮崎	93.6%	1.9%
	全国	93.2%	2.7%
2	宮崎	68.7%	3.7%
	全国	70.6%	4.9%
3	宮崎	93.5%	1.4%
	全国	89.4%	2.7%

誤答例
-2「均」が書けない (18.6%)
二2「し」が書けない (25.6%)

比喩を用いた表現について理解しているかどうかをみる問題は、全国と比べて課題がある。

A問題

1 ——線部「かすみか 雲か」とありますが、ここで「かすみ」や「雲」のように見えたものは何ですか。本文中から探し、抜き出してください。

さくら	さくら
さくら	さくら
野山も	里も
見わたす	かぎり
かすみか	雲か
朝日に	にほふ
さくら	さくら
花ざかり	

七 次は、「さくら さくら」の歌詞です。

	8 七	正答率	無答率
1	宮崎	48.2%	3.2%
	全国	52.4%	3.7%

誤答例
その他(48.7%)
・「野山も 里も」など

指導のポイント
自分の体験と結び付けて情景を想像したり、解説した文章を読んだりするなどの活動を通して、比喩などの表現技法に着目し、内容を捉えることができるように指導しましょう。



文章の構成や表現の特徴を捉えることができるかどうかをみる問題は、全国と比べて課題がある。

B 問題

3

次は、中学三年生の小川さんが興味をもった【新聞記事】と、それに関連して探した情報を小川さんがまとめた【資料】です。

【新聞記事】

漢字、正確に書けますか？

文化庁 国語に関する世論調査

「書く力が衰えた」66・5%

調査では、携帯電話や電子メールなどの普及によって「漢字を正確に書く力が衰えた」と感じる人が66・5%に上り、平成13年度調査時より25・2%増えたことが20日、文化庁の「平成23年度国語に関する世論調査」で分かった。

調査では、携帯電話や電子メールなどの普及による情報交換手段の多様化が、日常生活に影響を与えている例として思い当たることを複数選択で質問。その結果「漢字を正確に書く力が衰えた」と回答した人が大幅に増えた。年齢別に見ると、20代は50代で7割台となっており、平成13年度には2割台だった16〜19歳と60歳以上でも、それぞれ、5割弱と5割台半ばと全っている。

また、全ての年代で平成13年度調査の結果よりも今回の調査結果の割合の方が高くなっており、最も差の小さい30代で19・9%、最も差の大きい20代では、30・8%の差となっている。

このほか「手紙やはがきは余り利用しないようになった」が15・6%増の57・2%、「手で字を書くことが面倒くさく感じるようになった」が10・1%増の42・0%となった。

中学校の国語科教諭（47）は「似た形の文字の使い分けや同じ読み方をする語句の区別などに ついては、今後にも注意して教え、情報機器と上手に付き合えるようにさせたい」と話した。

平成24年9月21日（金）【全国新聞】朝刊より

- 【新聞記事】の書き方の特徴を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。
- 1 始めに要点をまとめて述べた上で、具体的な数値を取り上げて詳しく書いている。
 - 2 始めに書き手の意見を述べた上で、複数の見方を取り上げて多面的に書いている。
 - 3 問題の解決方法を見出しで示した上で、グラフを用いて分かりやすく書いている。
 - 4 最新の情報を見出しで示した上で、出来事の流れを時間の経過に沿って書いている。

正答



	3	正答率	無答率
宮崎		56.8%	0.6%
全国		61.0%	0.9%

誤答例
 「4」と解答しているもの(18.3%)
 「3」と解答しているもの(14.8%)

指導のポイント
 目的に応じて必要な情報を収集する際には、文章の形態に応じた構成や展開、表現の特徴などに注意して読むように指導しましょう。
 授業アイデア例参照



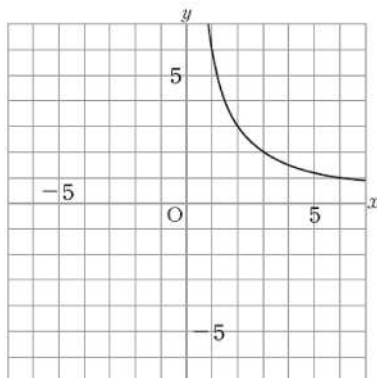
【中学校数学】

与えられた反比例の式を基に、グラフを完成できるかどうかをみる問題は、全国と比べてできている。

A 問題

10 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

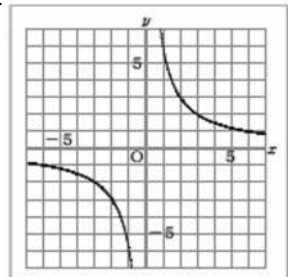
(4) 下の図の曲線は、反比例 $y = \frac{6}{x}$ のグラフの一部です。この反比例のグラフを完成しなさい。



	10	正答率	無答率
(4) 宮崎		77.1%	5.0%
全国		71.0%	8.8%

誤答例
 グラフを第3象限のみにかいているもの(13.6%)

正答



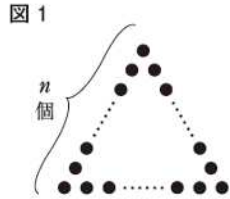
今後も、関数の式、表、グラフを関連付けた指導をお願いします。



数学的に表現された結果を事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題は、全国と比べてできている。

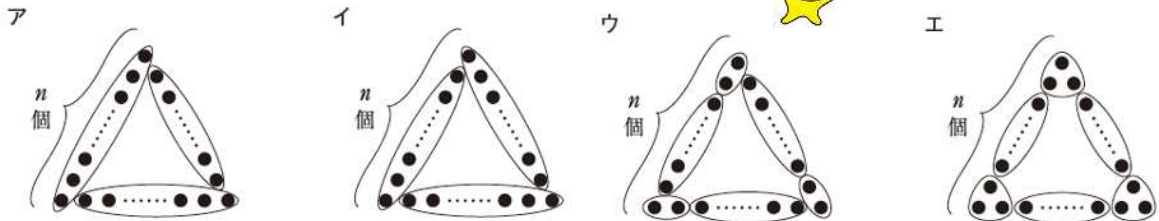
B問題

6 図1のように、1辺に n 個ずつ碁石を並べて正三角形の形をつくり、碁石全部の個数を求めます。



	6	正答率	無答率
(2)	宮崎	60.8%	1.2%
	全国	56.6%	2.1%
誤答例 「ア」と解答しているもの(19.5%)			

(2) 図1で、碁石のまとまりを考えて、ある囲み方をすると、碁石全部の個数は、 $3(n-1)$ という式で求めることができます。その囲み方が、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。



正答 イ

今後も、式の意味を理解できるように言葉、数、式、図などを関連付けた指導をお願いします。



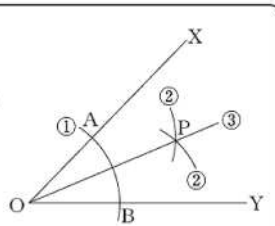
角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を見いだすことができるかどうかをみる問題は全国と比べ課題がある。

A問題

4 次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。
(2) $\angle XOY$ の二等分線を、次の方法で作図しました。

作図の方法

- ① 点Oを中心として適当な半径の円をかき、辺OX、辺OYとの交点をそれぞれA、Bとする。
- ② 2点A、Bをそれぞれ中心として、等しい半径の円をかき、その交点をPとする。
- ③ 直線OPをひく。



この方法で $\angle XOY$ の二等分線が作図できるのは、上の図で点A、O、B、Pの順に結んでできる四角形AOBPがある性質をもつ図形だからです。その図形が、下のアからオまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。

- ア 直線OPを対称の軸とする線対称な図形
- イ 直線OXを対称の軸とする線対称な図形
- ウ 点Aと点Bを通る直線を対称の軸とする線対称な図形
- エ 点Oを対称の中心とする点対称な図形
- オ 点Aと点Bを通る直線と直線OPの交点を対称の中心とする点対称な図形

	4	正答率	無答率
(2)	宮崎	44.2%	0.5%
	全国	48.9%	1.0%
誤答例 「オ」と解答しているもの(24.9%) 「ウ」と解答しているもの(13.3%)			

正答 ア

指導のポイント

作図の方法を振り返る場面を設定し、作図の手順によってできる点や線分の特徴を確かめる活動を取り入れて指導しましょう。

線対称や点対称、対称の軸などの基礎的・基本的な事項について、確実な理解と定着をお願いします。



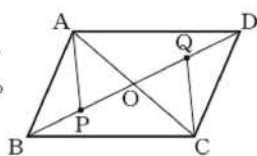
示された方針に基づいて証明することができるかどうかをみる問題は全国と比べ課題がある。

B問題

4 悠斗さんは、次の問題を考えています。

問題

右の図のように、平行四辺形ABCDの対角線の交点をOとし、線分OB, OD上に、 $BP = DQ$ となる点P, Qをそれぞれとります。このとき、 $AP = CQ$ となることを証明しなさい。



次の(1), (2)の各問いに答えなさい。

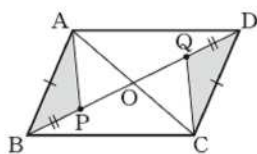
(1) 悠斗さんは、次のような証明の方針1を考えました。この証明の方針1にもとづいて、 $AP = CQ$ となることを証明することができます。

証明の方針1

① $AP = CQ$ を証明するためには、 $\triangle ABP \equiv \triangle CDQ$ を示せばよい。

② $\triangle ABP$ と $\triangle CDQ$ の辺や角について、等しいことがわかるものを探せばよい。まず、平行四辺形ABCDの性質から、 $AB = CD$ がわかるし、仮定から、 $BP = DQ$ もわかっている。

③ ②を使うと、 $\triangle ABP \equiv \triangle CDQ$ が示せそうだ。



この証明の方針1にもとづいて、 $AP = CQ$ となることを証明しなさい。

指導のポイント

証明の方針を立てることができるよう、結論を示すためには何がわかればよいか。

仮定からいえることは何か。とを結び付けるには、あと何がいえればよいか。

の3点について考える場面を設定しましょう。

証明の過程を数学の記号を用いて、的確に表現できるように指導しましょう。

授業アイデア例参照



4	正答率	無答率
(1) 宮崎	28.4%	21.0%
全国	32.4%	23.3%

誤答例

ABP = CDQの根拠に誤りがあるもの(5.4%)

ABP ≡ CDQの根拠に誤りがあるもの(5.5%)

その他(34.6%)

- ・与えられた条件だけを記述しているものなど
- 正答のうち、表現が十分でないもの、記号等を書き忘れていたもの、根拠がない、根拠の表現が不十分なものなどが、23.2%ある。

正答

証明

(例)

$\triangle ABP$ と $\triangle CDQ$ において、
仮定より、

$BP = DQ$ ……①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AB = CD$ ……②

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AB \parallel CD$

平行線の錯角は等しいから、
 $\angle ABP = \angle CDQ$ ……③

①, ②, ③より、
2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、
 $\triangle ABP \equiv \triangle CDQ$
合同な図形の対応する辺の長さは等しいから、
 $AP = CQ$

宮崎県の調査結果

【10 児童の学習状況の概要】

学校政策課

宮崎県が全国平均を上回る主な質問について【小学校】

児童質問紙について本県と全国の状況を比較し、肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」）をした児童の割合が、全国平均を上回る主な質問を示してあります。

質問 題号	分 類	内 容	宮崎	全国	差
18	生活 面	早起きである（午前6時30分より前）	60.9	41.5	19.4
22		普通の日々の1日当たりの、テレビゲームの時間（1時間以下）	55.8	46.9	8.9
25	学 習 面	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり2時間以上勉強をする	38.5	27.1	11.4
26		学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強をする	44.5	25.2	19.3
27		学習塾（家庭教師を含む）に通っていない	62.5	50.3	12.2
31		学校図書館・室や地域の図書館へ週1回以上行く	30.6	20.5	10.1
32		1か月に5冊以上本を読む	44.7	30.6	14.1
39		家で自分で計画を立てて勉強をしている	66.7	58.9	7.8
41		家で、学校の授業の予習をしている	53.6	41.3	12.3
42		家で、学校の授業の復習をしている	80.9	51.4	29.5
43		家で、苦手な教科の勉強をしている	67.0	51.1	15.9
44		家で、テストで間違えた問題について勉強をしている	69.7	51.1	18.6
92		国語の授業で話し合いをするとき、司会者として発言をまとめたり、参加者として立場や理由を明らかにして発言している	53.5	47.0	6.5
95		国語の授業で、必要な情報を得るために、文章の内容とグラフなどを合わせて考えている	60.4	52.2	8.2
103		算数の勉強は好き	76.2	66.2	10.0
108		算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	72.6	66.2	6.4
117	普段の生活で、身のまわりにある割合の表現について、実際に計算したことがある	60.9	62.7	6.3	
17	意 識 ・ 経 験	家の人（兄弟姉妹除く）と将来のことについて話す	66.0	59.7	6.3
49		今住んでいる地域の行事に参加している	71.3	63.9	7.4
50		地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	63.6	57.4	6.2
52		地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	52.7	37.5	15.2

児童質問紙の結果概要（全国平均との比較）

全体的にどの質問に対しても肯定的に答えている児童の割合が高い。

2教科ともに、その教科の勉強は「大切」と回答している児童の割合が高い。

「家での学習」「予習・復習」「苦手な教科の勉強」など、全国と比較すると高い割合である。

「年上や年下の友達と一緒に遊んだり勉強したりする」「地域の大人から褒められたことがある」「近所の人へ挨拶をしている」も全国と比較するととても高い割合である。

2教科ともに、B問題の解答時間は十分であったと回答している児童の割合は、全国と比較して低い傾向にある。

学校図書館・室や地域の図書館の利用や読書量については、全国と比較すると割合は高くなっているが、今後も引き続き指導の必要がある。

原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと回答している児童の割合は、全国と比較して高い傾向がある。

平成25年度 全国学力・学習状況調査

宮崎県の調査結果

【11 生徒の学習状況の概要】

学校政策課

宮崎県が全国平均を上回る主な質問について【中学校】

生徒質問紙について本県と全国の状況を比較し、肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」）をした生徒の割合が、全国平均を上回る主な質問を示してあります。

質問 通し番	分 類	内 容	宮崎	全国	差
18	生 活 面	早起きである（午前6時30分より前）	53.9	39.7	14.2
22		普通の日々の1日当たりの、テレビゲームの時間（1時間以下）	58.9	51.9	7.0
23		普通の日々の1日当たりの、インターネットの時間（1時間以下）	58.8	50.1	8.7
24		携帯電話をもっていない	46.7	31.5	15.2
65		近所の人にあつたときは、挨拶をしている	93.2	87.1	6.1
25	学 習 面	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり2時間以上勉強をする	43.4	36.5	6.9
26		学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強をする	58.5	40.6	17.9
27		学習塾（家庭教師を含む）に通っていない	59.6	39.6	20.0
39		家で、自分で計画を立てて勉強をしている	51.5	44.5	7.0
40		家で、学校の宿題をしている	94.2	86.8	7.4
42		家で、学校の復習をしている	75.9	48.6	27.3
43		家で、苦手な教科の勉強をしている	62.1	46.2	15.9
44		家で、テストで間違えた問題について勉強をしている	56.6	39.5	17.1
73		「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う	76.8	67.8	9.0
74		「総合的な学習の時間」に、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	58.5	51.1	7.4
104		数学の勉強は好き	61.5	55.5	6.0
105		数学の勉強は大切だと思う	86.5	80.5	6.0
109		数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	43.7	37.7	6.0
110		数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	78.2	69.6	8.6
6	意 識 経 験	自分には、よいところがあると思う	73.4	66.4	7.0
17		家の人と将来のことについて話す	72.5	62.5	10.0
38		家的人是、授業参観や運動会などの学校行事に来る	92.4	81.2	11.2
51		地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	58.1	51.8	6.3
53		地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	57.2	44.6	12.6

生徒質問紙の結果概要（全国平均との比較）

全体的にどの質問に対しても肯定的に答えている生徒の割合が高い。
 2教科ともに、その教科が「大切」と回答している生徒の割合が高い。
 「家での学習」「復習」「苦手な教科の勉強」など、全国と比較すると高い割合である。
 「いじめはどんな理由があってもいけないこと」「人の役に立つ人間になりたい」と回答している生徒の割合がとても高い。
 2教科ともに、B問題の解答時間は十分であったと回答している児童の割合は、全国と比較して低い傾向にある。
 普段の授業で、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると感じている生徒の割合が低い。また、新聞を読んでいる生徒の割合も低い。
 「家で学校の復習をしている」と肯定的に回答している生徒の割合は、全国と比較して高い傾向が見られるが、「家で学校の予習をしている」と肯定的な回答をしている生徒の割合は低い傾向が見られた。

平成25年度 全国学力・学習状況調査
調査結果のポイント（参考資料）
【授業改善のポイント・小学校】

〔小学校・国語科〕

話すこと・聞くこと

相手の立場や状況を踏まえ、適切かつ効果的に助言をする指導の充実
助言をする際は、相手の立場や状況を十分に感じ取ろうとする共感的な態度で相手が話す内容を理解するとともに、自分の考えを明確にしなが言葉遣いに注意することが重要である。また、具体的な意見や提案を一方的に伝えるのではなく、相手が自ら課題を解決できるような助言となるように指導することも大切である。

書くこと

意見を述べた文章や活動を報告する文章などを目的に応じて編集する指導の充実
自分の課題について調べ、意見を述べた文章や活動を報告する文章などを各自で編集したり、あるいはグループで共同して調べ、分担して持ち寄って内容を編集したりすることが重要である。そのためには、目的や意図を明確にし、どのような観点で取材し、どのような構成や文体にして書くのかを具体的に指導することが必要である。その際、目的や意図に応じた編集として章立てや節などを工夫するとともに、題名や前書き、目次、後書き、奥付などを付け、実際の本や新聞、雑誌、パンフレットなどの編集に合わせるようにすることが大切である。

読むこと

自他の読み方を交流し、効果的な読み方を工夫する指導の充実
本や文章を読んで、感想や紹介、推薦の文章を書くためには、本や文章の選択の仕方や読み方を工夫することが重要である。例えば、本や文章の選択の仕方としては、一編の話に限定するのか、数編の文章が所収された本を対象にするのかという違いに着目することができるように指導することが大切である。また、同じ作者やテーマに即して本や文章を取り上げるのか、あるいは、違う作者やテーマを取り上げるのかなどに着目する必要もある。さらに、読み方としては、登場人物や作品の構造、表現・叙述、視点などの観点に基づき、それらに関係付けて読むとともに、自他の読み方の工夫などについて交流することが大切である。これらを考慮し、各自の読み方の自覚化を図るとともに、多様な選書の仕方や効果的な読み方を工夫することができるように指導することが重要である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

文の定義を理解し、構成に注意する指導の充実
文の定義や文及び文章の構成については、学年の段階に応じた指導が重要である。第1・2学年においては、「文の中における主語と述語との関係に注意すること」、第3・4学年においては、「指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと」、第5・6学年においては、「文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること」をそれぞれ重点的に指導することが大切である。特に第5・6学年では、文の構造として単文、重文、複文などがあることを理解できるようにすることが大切である。そのためには、1つの内容を1つの文に簡潔に書いたり、2つ以上の内容を、必要に応じて1つの文にまとめて書いたりする指導が考えられる。また、その反対に、2つ以上の内容が含まれた1文を内容ごとに複数の文に分けて書いたり、箇条書きにしたりするなど、言語を操作する指導も大切である。

〔小学校・算数科〕

数と計算

数直線等を活用して、指定された概数になる数の範囲を捉える活動の充実
概数による処理を適切に行うためには、四捨五入して指定された概数になる数の範囲を捉えるようにすることが大切である。また、概数を用いるときは、その目的を明確にしながら使い方を理解できるようにすることが大切である。

筋道を立てて考えた過程について振り返る活動の充実

問題を解決するときには、筋道を立てて考え、考えを説明したり記述したりする活動とともに、解決した過程を振り返り、考えの説明や記述を見直すことで、よりよい表現へと高めることが大切である。

量と測定

単位量当たりの大きさを求める場面や意味を理解する指導の重視

単位量当たりの大きさを比較することは、単位となる大きさを1にそろえて比較していることであると理解することが重要である。特に、二つの数量のどちらを単位とするかによって、数値の比較の仕方が異なることを理解し、目的に応じて適切に処理できるようにすることが大切である。

言葉や数、式、図、表、グラフなどの表現を関連付けて考える活動の充実

問題を解決するときには、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し、伝え合ったりする活動を充実することが大切である。その際、図や言葉などの表現を関連付け、問題を解決する過程における操作や説明の意味を明らかにすることで、数量や図形の意味を実感的に理解できるようにすることが大切である。

図形

合同な図形をかいたり、作ったりする算数的活動を基にした指導の重視

作業的、体験的な算数的活動を基に、合同な三角形をかいたり、作ったりする条件を実感的に理解することが大切である。また、合同についての理解を深めるために、合同な図形をかいたり、作ったりできない場面についても取り上げ、図形が一つに決まる意味を明確にすることが大切である。

見取図や展開図の見方が確実にできるようにする指導の重視

見取図や展開図から具体的な立体図形を想像したり、具体的な立体図形を基に見取図や展開図に表したりすることが大切である。また、見取図や展開図の表現に慣れ親しみ、かいたり読んだりする指導を重視し、立体図形についての理解を深めることが大切である。

数量関係

式や計算の結果の意味を確実に理解できるようにする指導の重視

式の指導においては、具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表したり、場面から式や計算の結果の意味を読み取り、言葉や図を用いて表したりできるようにすることが重要である。

表の数値を根拠として、二つの数量の関係が比例しているかどうかを説明する指導の重視

二つの数量の対応や変化の特徴を明らかにするためには、二つの数量の関係を表にまとめたり、表から規則性を読み取ったりすることが大切である。特に、見いだした二つの数量の関係が比例しているかどうかについて、表の数値を根拠として説明することが大切である。

割合の考えを用いて論理的に説明する指導の重視

割合に関する問題解決の場面で(基準量)×(割合)=(比較量)の関係を根拠にして、式や言葉で理由を説明できるようにすることが大切である。

平成25年度 全国学力・学習状況調査
調査結果のポイント（参考資料）
【授業改善のポイント・中学校】

〔中学校・国語科〕

話すこと・聞くこと

司会の役割を理解し、状況に応じてその役割を果たす指導の工夫
話合いの方向を捉えて司会の役割を果たす力を身に付けるために、具体的な場面を設定して司会の果たす役割を確認するとともに、参加者へどのように声を掛けるのが適切かを具体的に考えるように指導することが大切である。その際、話合いの状況によって司会の声の掛け方が複数ある場合があることを確認することが重要である。

書くこと

目的に応じて、情報の取り上げ方や書き方を工夫して書く指導の工夫
情報を整理して分かりやすく書く力を身に付けるために、目的や相手に応じて、取り上げる情報、それを示す順番などの観点で書いた文章を読み直し、よりよい文章にするように指導することが重要である。
根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く指導の工夫
自分の考えを具体的に書く力を身に付けるために、本や文章のどの部分に特に興味や関心をもったのかを明確に示した上で、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどのように考えるのかなどを丁寧に書くように指導することが大切である。その際、例えば、引用した箇所と自分の考えとの関連、根拠として取り上げた内容の妥当性、自分の考えの広がりや深まりの有無など、書いた文章を複数の観点から見直すことが重要である。

読むこと

調べる手段の特徴を理解し、見通しをもって情報を集める指導の工夫
目的に応じて情報を収集し、課題を解決する力を身に付けるために、具体的な言語活動を設定し、明確な目的をもって本や文章を読み、自分の課題の解決に適した手段を選ぶように指導する必要がある。そのためには、情報を収集する手段の特徴を確認するとともに、複数の手段を用いて情報を収集し、自分が設定した課題に応じて収集した情報を整理する学習などを設定することが大切である。
目的に応じて、文章の特徴を捉える指導の工夫
目的に応じて必要な情報を収集する力を身に付けるために、実生活における様々な文章を取り上げ、文章の構成や展開、表現の特徴などに注意して読むように指導する必要がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

表現の技法について理解したことを各領域等の指導に生かす工夫
小学校での学習を踏まえ、文章中の具体的な表現と結び付けながら、比喻や反復などの表現の技法について理解し、その名称とともに整理するように指導することが大切である。
言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫
言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、辞書等を使って、なじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べる機会を意図的に設ける必要がある。その上で、調べたことを「話すこと・聞くこと」や「書くこと」などの学習に生かしていくように指導することが大切である。

〔中学校・数学科〕

数と式

正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付ける活動の重視

正の数と負の数の必要性和意味を理解できるようにするために、実生活の様々な場面における数量やその変化を、正の数と負の数を用いて表す活動を一層重視することが大切である。

事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実

事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する活動を充実することが大切である。

事象を多面的に見る活動を充実することが大切である。

図形

作図の方法を図形の対称性に着目して見直す活動の重視

角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線の作図の方法について、いずれも2つの円がそれらの中心を結ぶ直線に対して線対称であるという性質を用いていることを見だし、作図の方法を統合的に捉える活動を一層重視することが大切である。

証明の方針を立て、その方針に基づいて証明する活動の充実

証明の方針を立てるために、結論を導くためには何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見いだしたりする活動を充実することが大切である。

証明の方針に基づいて、事柄を記号で表したり、これらが成り立つ根拠を明らかにしたりして、仮定から結論を導く推論の過程を的確に表現する活動を充実することが大切である。

関数

関数の意味を理解し、関数関係を見いだす活動の重視

様々な事象の中の2つの数量 x 、 y について、 x が y の関数であるかどうかを見いだすために、具体的な数を x に当てはめて、 y が一意に決まるかどうかを確かめる活動を一層重視することが大切である。

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

事象の変化の様子について予測したり、実際のデータの特徴を分析したりする活動を充実することが大切である。

様々な問題を解決する際に、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」とその「使い方」について考え、説明する活動を充実することが大切である。

資料の活用

相対度数の必要性和意味を理解し、資料の傾向を読み取る活動の重視

相対度数の必要性和意味についての理解を深められるようにするために、ある階級の度数が総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を一層重視することが大切である。

読み取った資料の傾向を基に、事柄の特徴を数学的に説明する活動の充実

目的に応じて資料を分類整理し、資料の傾向を読み取り、整理の仕方を工夫することで資料の傾向を捉え直したりする活動を充実することが大切である。

資料の傾向を読み取ってわかった事柄について、前提に当たる部分（主部）と、それによって説明される結論に当たる部分（述部）を明確にして表現する活動を充実することが大切である。